

AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会 会報 第45号

空中回廊

開館25周年記念「長沢芦雪展」京（みやこ）のエンターテイナー
会員のひろば：活動のまとめ（アートカフェ，特別鑑賞会，講座など）
南雄介館長から／新学芸員の紹介
愛知県美術館 木村定三コレクションから【不動明王立像胎内仏画断片】





《降雪狗児図》
公益財団法人阪急文化財団
逸翁美術館蔵



無量寺方丈外観

10月6日(金)～11月19日(日)

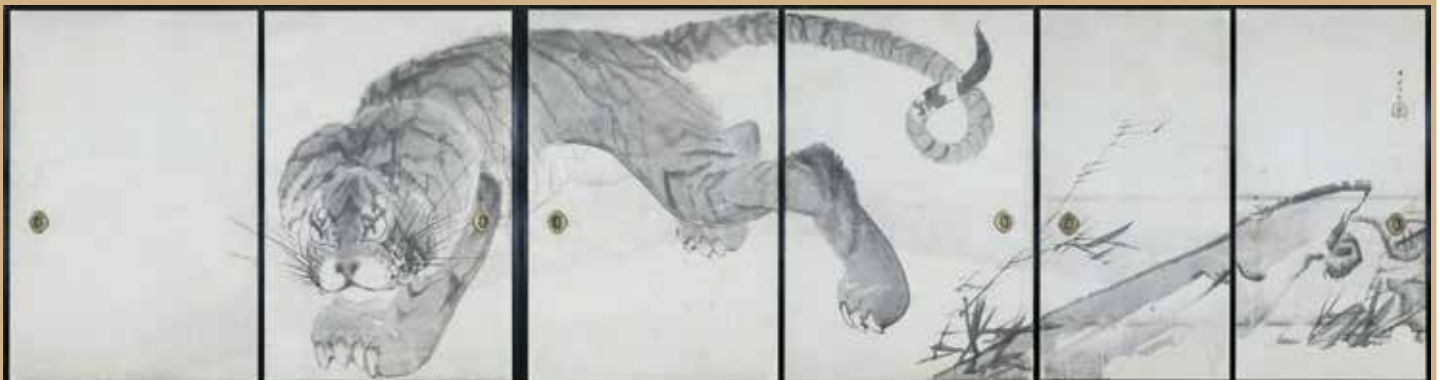
この展覧会は、4年前(2013年)に開催した「円山応挙展」に続く江戸時代絵画の企画です。江戸絵画といえば昨年東京での「若冲展」が、最大300分以上という待ち時間でも話題となりましたね。若冲到比べると芦雪の一般的な知名度はまだ低いでしょう。けれども若冲の名が急速に高まったのは2000年、京都国立博物館での若冲展からで、20年前には知る人ぞ知るという程度でした。実は、日本人が忘

れていた若冲を1950年代から“再発見”されていたジョー・プライスさんが、一番好きな画家は芦雪なのです(2007年の「プライスコレクション 若冲と江戸絵画」展では6点の芦雪が出品され、4館で分担した図録の作品解説で、芦雪は私が書きました)。しかもジョーさんは、今回ポスターなどに載せている無量寺の《虎図襖》を世界一の絵だとされ、「もしこの絵が手に入られるのであれば、私は自分のコレクションを擲(なげう)つでしょう(笑)」とまで仰っているのです!この芦雪展を観ておけば、将来芦雪ブームが来た時に胸を張れるかもしれません。今回プライスコレクションからは傑作《白象黒牛図屏風》をお借りします。

さてここでは、その《虎図襖》を含む無量寺の障壁画についてご紹介します。天明6年(1786)、33歳の芦雪は無量寺の愚海住職に同道して南紀に赴き、師・応挙の作品を届けるとともに、応挙の名代として現地で多くの絵を描きました。《虎図襖》はその一つです。おそらく日本絵画史上最大のこの虎は、ジャンプの躍動感や猫のような顔が魅力的で、虎が起こすとされる風の後ろの竹が強くなびいています。虎図と対をなす《龍図襖》では、一気呵成に描かれたらしく縦に流れ落ちる薄墨が、龍が雷とともにもたらす雨も表しています。一般の龍虎図なら横並びの配置で龍と虎が向き合うところ、この龍虎図襖は無量寺方丈(禅宗の建築)の中央の部屋で、対面



無量寺のある本州最南端 串本の海



長沢芦雪《虎図襖》
無量寺・串本応挙芦雪館蔵



無量寺 方丈室中 (写真協力 大日本印刷株式会社)

するように描かれています。オリジナルの障壁画は収蔵庫を兼ねる「串本応挙芦雪館」にありますが、近年方丈にデジタル複製画が設置されて、現住職の八田（はちだ）尚彦（しょうげん）さんは「本尊に向かってお経をあげている時にこの龍虎が奥の仏間からせり出して来て、その顔が自分の横に並ぶように見える」ことに気づかれました。本展覧会では、無量寺方丈の設え



長沢芦雪《薔薇に鶏・猫図襖》から《子猫と魚》

を再現してオリジナル絵画をご覧いただきます。虎の顔から肩は手前から見た形なのに長い後ろ脚は横から見た形だったり、龍の角や鉤爪が大きすぎたりするのも、斜め前から見ると納得できるでしょう。芦雪がそこまで計算していたとすると、大変な造形力だと思います。

龍虎図の両脇にあたる部屋も再現展示します。向かって左の《薔薇に鶏・猫図襖》では、ちょうど虎の裏側に猫の親子が描かれ、子猫が水の中の魚を睨んでいます。この魚から見た子猫が《虎図》ではないかという説がありますが、私はさらに「魚」といえば印章にも用いられた芦雪

の名前の一つであり、芦雪自身が世界はまだまだ広く未知であると示している含蓄のようにも考えています。龍図襖の右隣《唐子琴棋書画図襖》では、中国の士君子のたしなみを表す画題を子供たちが演じていて、落書きやいたずらの様子に頬が緩みませんが、左端で画面の奥に消え入るように駆けていく子供たちは、誰かの供養なのかもしれません。この展覧会では「凄い、かわいい、面白い」ばかりではない、芦雪の深みにもご注目いただきたいと思います。

(愛知県美術館
美術課長 深山孝彰)



長沢芦雪《龍図襖》
無量寺・串本応挙芦雪館蔵

アートカフェ

アートカフェはアーティストを囲んで気軽に話せるようにと企画されたイベントです。若手アーティストを応援するだけでなく、これまで行事に参加されたことのない会員の方にも、足を運んでいただく機会にしたいと考えています。

3月5日 9名参加

梅津庸一氏



若い方に人気のアーティスト。主催する画塾の塾生さんも参加してくださいました。美術界の現状や評価方法、SNSをフル活用した発信など、忌憚なき考えを伺うことができました。生き生きと語る梅津さんを見ていると、どこか背中が丸くなった自分に気づかれます。

4月7日 12名参加

水江未来氏



CGではなく手描きで作り上げる苦勞と完成の喜びは格別とのこと。会場では「廃墟になったテーマパークからヒントを得て制作中の短編をインスタレーションに再構成した」という説明も。「原画」の展示では、「紙に鉛筆で描くことがいいんです」と話してくれました。

7月22日 10名参加

塩見友梨奈氏



「人にまつわるもの」を布で表現されている、フレッシュな塩見さん。現在のスタイルに至る過程を伺ったあと展示中の《首吊りビリー》に乗せていただき、作品の世界に浸りました。鑑賞中の中学生の注目も浴び、テキスタイルによる表現の将来性を感じるひとときでした。

特別鑑賞会

友の会会員のみの特典として、現在開催中の企画展内容を深く知る機会を提供しています。企画展の担当学芸員のお話を伺ったあと、実際に作品を見ながら疑問点や感想を語りあえるひとときです。

1月12日 70名参加
ゴッホとゴーギャン展
(森美樹主任学芸員)



さすがは人気のゴッホとゴーギャン。普段の倍近くの方が集まり、大変な熱気のなか行われました。

4月13日 43名参加
フィンランド・デザイン展
(中村史子学芸員)



デザイナーの一人が「馴染みの風景を『違った』方向から見るといいものです」と、好きな風景を語っています。我々がフィンランド・デザインに惹かれるのは、そうした自分のやり方、自然と深く関わりながら暮らすデザイナーの生活スタイルに共感するからかもしれません。

7月6日 71名参加
大エルミタージュ美術館展
(石崎尚学芸員)



石崎学芸員の解説に引きこまれました。作品中の人物やその時代背景はもちろん、構図や色遣いについても学ぶことで、作品が語りかけるものを、よりたくさん受け止めることができました。

他館鑑賞会

会員同士が交流する場を設けよう、と愛知県近郊の美術館で開催される展覧会を訪ねています。現地集合・現地解散ですがただ鑑賞するだけでなく、担当学芸員からお話を伺うことができるのも魅力のひとつです。

5月14日 26名参加

豊田市美術館

東山魁夷
唐招提寺御影堂障壁画展



鑑賞に先がけ、村田館長から、東山魁夷の生涯や障壁画制作の過程、鑑真和上や御影堂の建設などについてお話を伺いました。御影堂の内部を再現したという展示室では、魁夷が全身全霊を込めて完成させた作品に圧倒されるばかりでした。

6月18日 22名参加

碧南市藤井達吉 現代美術館

スケーエン
デンマーク芸術家村展



この美術館ではいつもお世話になっている浅野泰子学芸員が、デンマーク語の発音から芸術家村開催のいきさつ、作品や作家の人間模様まで幅広く語ってくださいました。スケーエン、北欧の作品からは縁遠かったのですが、いざ作品に向き合うと自然に入り込むことができました。

講座

友の会講座は、美術についてより深く知る機会を提供することを目的に開催しています。愛知県美術館の学芸員や外部の方にお願ひし、会員からの要望や企画展に合わせたテーマをお話していただいています。

2016年度 会員にアンケートを実施した結果をもとに開催しました。要望として日本美術・西洋美術など基本的な美術の知識が欲しいとの声が多かったため、連続講座を企画しました。

1月27日 58名参加

小林英樹氏

(愛知県立芸術大学美術学部
油画専攻名誉教授・画家)



西洋美術

『ゴッホとゴーギャン』—二人が後世の画家たちに遺したもの—

主にゴッホの作品について、「小林画伯」としての視点でお話くださいました。これまでにない視点でのお話が、会員の方々には好評でした。

2月25日 48名参加

3月11日 49名参加

伊藤大輔氏

(名古屋大学大学院
文学研究科教授)



日本美術

風流の精神と日本の絵巻物 —院政期を中心に—

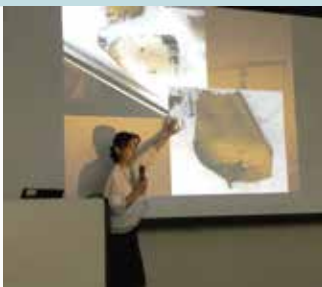
院政期、「風流」は現代と異なり「華やかな」「豪華な」という意味を持っていました。その風潮を危ぶみ過差禁止令が発せられた世相のなかで『鳥獣戯画』は制作されたのです。歴史や美術の教科書からは解らない深い世界を教えてくださいました。

2017年度 「前年度までに開催したものは異なる分野で」とテーマを選択し、そのお話をしていただくならこの方に…と企画しています。また、所蔵品管理サポートで大変お世話になっている、長屋主任学芸員ならではのお話を伺いたいという要望にもお応えすることができました。

5月13日 35名参加

長屋 菜津子 氏

(愛知県美術館主任学芸員)



保存担当が今だから話せる苦労話と自慢話

日本では保存専門の学芸員という位置づけがない中で、愛知県美術館の所蔵品保存のためご尽力されてきた長屋学芸員。世界で5本の指に入ると認められた業績をはじめ、活動の数々を、苦労話・自慢話を交えてお話しいただきました。国宝〇〇仏像？の修復現場や黒漆厨子の修理の過程はまさに修羅場！手に汗握る状況でのご活躍ぶりに驚くばかりでした。所蔵品に対する愛情やご自身の責任感にもじみ出る素晴らしいお話でした。

5月28日 38名参加

古田 浩俊 氏

(愛知県美術館副館長)



木村定三コレクションについて

会員ならば、一度は耳にしたことのある「木村定三」という名前。学芸員としてご本人・ご家族と直接面識のあった古田副館長ならではのエピソードを、たっぷり伺うことができました。お話のあとで「木村定三さん」、とお呼びしたくなりました。

7月29日 58名参加

小澤 克彦 氏

(岐阜大学名誉教授)



イスラム美術 —スペイン、トルコ、イランのモスクを巡って—

イスラムとは、これまであまりなじみがなかったのですが、実はユダヤ教やキリスト教とも関連の深い、とても歴史ある宗教だということに驚きました。アラベスク文様に彩られた美しい建物とともに、信者にしっかりと根付いた信仰に感動しました。

南 雄介新館長より「展示と作品」



美術館の常設展示では、同じ作品と長い時間をかけて付き合い、いろいろ違った展示を試してみることができます。さまざまなテーマを立てて、異なったコンテキストのもとに展示するというのは無論ですが、もっと即物的に、展示の高さや空間を変えただけで、作品の表情は一変してしまいます。それについて、私の経験を述べてみたいと思います。

4月に愛知県美術館に着任する以前、私は、東京都美術館、東京都現代美術館、国立新美術館という東京の3つの美術館で30年近く、学芸員として仕事をしてきました。どれも大規模な美術館ですが、とくに東京都現代

美術館と国立新美術館は、天井が高く巨大な展示室が特徴です。

このうち、東京都現代美術館は、東京都美術館が所蔵していた約3000点のコレクションのほとんどを引き継いで、1995年に開館しました。このため、両館で仕事をしていた私は、同じ作品を全く異なった空間で展示する経験をするようになりました。改装前の東京都美術館の企画展示室は、3.2mとマンション並の天井高しかなかったのに対して、東京都現代美術館の天井は2倍以上の6.5～6.8mで、さらに上階はトップライトもある巨大な空間です。空間が変わると、同じ作品が全く違って見えたのは、ひじょうに鮮烈な体験でした。新しい広々とした空間で、のびのびと大きく見える作品もあれば、小さく縮んでしまったように見える作品もあったのです。

一般に、小さな作品は近づいて見る方がいいので低めに展示し、大きな作品は遠くから眺めるので高めに展示します。しかし、大き

な絵を遠くから見ると、大きく見えなくて普通の絵になってしまうことがあります。大きな絵というのは、視野が一杯になるような鑑賞体験を生み出すように意図されていることも多く、作家自身が自分の絵の中に入り込み、包み込まれるような体験をしながら描いていることもあります。そのため、大きな絵画（特に抽象絵画）は、じつはあまり高い位置に展示してはいけないし、近くから見た方がよかったです。それを理解するのに、試行錯誤しながら、やはり数年はかかったでしょうか。

これはほんの一例ですが、展示というのは、わずか数センチ位置が変わっただけで、印象が一変してしまうことがあります。それは、じっさいに展示室で作品を並べてみないとわかりません。作品との出会いの場を提供するという意味では、それは学芸員の仕事の重要な一部であり、また醍醐味であるとも言えるでしょう。

(南雄介)

新学芸員の紹介

黒田和士学芸員

-Kazushi Kuroda-



大学を卒業後、東京藝術大学大学美術館で非常勤学芸員として、続いて渋谷のBunkamuraザ・ミュージアムで常勤学芸員として働いてきました。大学付属の美術館と企業が運営する美術館ということで、どちらも愛

知県美術館とは少し違った雰囲気の施設かもしれませんが、Bunkamuraでは愛知県美術館とデュフィ展で一緒にさせていただく機会もありました。

関東地方以外に住むのは今回が初めての経験となりますが、愛知県美術館の多彩な活動やコレクションに魅かれてやって参りました。大学では近代西洋美術、特にヴァシリー・カンディンスキーの研究をしていました。ただ、学芸員としては作曲家エリック・サティの展览会や、浮世絵の歌川国芳・国貞、河鍋暁斎と、なんでも担当してきました。まだまだ未熟者ですが、興味の範囲は幅広いので、専門分野を大切にしながらも、機会があればどんな分野でも挑戦したいと思っています。(黒田和士)



《不動明王立像胎内仏画断片》修理後
木村定三コレクション

前回（2013年）に引き続き木村定三コレクションからの紹介。というより今回もこぼれ話に近い話を一席。

その急を知らせる電話は、他の作品に関する3日におよぶ大研究会の中日（なかび）にかかってきた。報せは奈良の美術院、不動明王立像の修理をお願いしている工房からである。「修理の途中、首の接続部分が緩み始め危険な状態に陥ったので、現場の判断でその接続部分を外しました。現状、中の札様のものが見えます。もし取り出すということでしたら、すぐこちらに来て立ち会って下さい」。

不動明王立像は何度か展示されているので、御存知の方も多と思うが、受贈直後のX線調査で、胎内の札様のものの存在は早くから確認されていた。しかしこの平成22年の修理には、その取り出しを可能にする解体修理は計画に含まれていなかったのである。件の研究会の合間に館長らと相談し、研究会終了翌日に奈良に飛んで行った。おりしも美術院では東大寺法華堂諸仏の修理も行われており、下記的一幕はすべてあの国宝不空罽索観音像の真下で繰り広



《不動明王立像胎内仏画断片》
木村定三コレクション

げられたことである。

館の判断が伝わり、私が見守る中、美術院さんが首の開口部から手を入れようとした・・・しかし・・・その方の手が・・・入らなかった・・・のである。目が合った。「長屋さんにとって頂くしかないですね」。ザアッと血の気がひく。観音様を見上げても駄目である。とても助けて頂けそうもない。袖を捲り上げ恐る恐る手を入れる。ひたすら指先だけの感触でその札様のものと木部の接着面を探り、ゆっくり剥離してゆく。腕も冷や汗が滲み出たのであろう、引き出した時には腕の表面にたくさんの虫粉が付いていた（ちなみにこの作品の殺虫処理は終わっている）。「おや、虫粉（フラス）ですね」と言うと、美術院さんが「フラス?! 木質仏像に付く虫を研究している先生が集めておられるのですが、差し上げて良いですか」とおっしゃった。「お役立て下さい」と私が返事するや否や、なんと! 美術院さんはお不動さんをくるとひっくり返し、逆さまに激しくシェイクし始めたではないか! 息が止まるような衝撃、その光景の中、虫粉といっしょに数枚の何かがヒラリと落ちてきた。これがこの胎内仏画断片発見のいきさつである。

14世紀の絹本絵画で未修理のまま現存している例はほとんどなく、後にこれは関係者を驚かす発見として新聞記事にもなった。研究会とこの断片発見、あの目まぐるしい日々を一生忘れることはないだろう。

（長屋菜津子）

木村定三コレクション 《不動明王立像胎内仏画断片》



学芸員の横顔
長屋菜津子

-Naoko Nagaya-

在職二十五年になりました。友の会の皆様とはサポート部会を通じていっぱい楽しい思い出ができました。心から感謝しています。



第45号 友の会活動紹介 2017年4月～2017年9月

- 4月** アート・カフェ vol.4 ★
フィンランド・デザイン展 特別鑑賞会★
 - 5月** 友の会講座（長屋菜津子主任学芸員）★
他館鑑賞会（豊田市美術館）★
友の会総会・記念講演会★
 - 6月** 他館鑑賞会
（碧南市藤井達吉現代美術館）★
 - 7月** アート・カフェ vol.5 ★
大エルミタージュ美術館展
特別鑑賞会★
友の会講座（小澤克彦氏）★
 - 8月** 定例活動のみ
 - 9月** 南雄介館長 講演会
- ★…中面でご紹介しています

理事会から

休館中の友の会活動について
「長沢芦雪展」後の11月から2019年3月まで、愛知県美術館は改修工事のため長期休館となります。1994年の友の会発足以来、初の1年以上に及ぶ長期休館です。しかし所蔵品管理ボランティアはこれまで通りに、隔週で活動します。また、会員権の期間延長を始めとして、以下のとおり様々なことを計画しています。

- ①他館鑑賞会（訪問先での講座も検討中）
- ②友の会の講座（会場は検討中）
- ③1泊バスツアー

これらの友の会活動だけでなく美術館の予定など、ホームページや休館中限定で発行するミニ会報でご紹介しますので楽しみに。（友の会会長 小林克敏）

友の会から

- 休館中の事務局の体制
事務局は週1回のみ在席します。連絡は郵便かFAX,Eメールにてお願いします。電話での対応はできません。
- イベントへの申し込み
ホームページからのイベント申し込みも可能になっています。新しい情報は随時更新しますので、ご確認ください。

愛知県美術館友の会 

www-art.aac.pref.aichi.jp

所蔵品管理	モニター	発送	受付 <small>〔要〕</small>	広報	ホームページ	理事会
22回	2回	3回	7回	4回	随時更新	5回

友の会行事予定

9月 南雄介館長の講演会
長沢芦雪展 特別鑑賞会
アートカフェ vol.6
日帰りバスツアー（静岡方面）
他館鑑賞会（名古屋市美術館）

10月

11月 **12月** 定例活動のみ

2018年

1月 他館鑑賞会
(名古屋市博物館)

楽しいイベントをたくさん計画
しています！友の会の仲間
と美術を楽しみましょう！

2017年度以降の活動予定

- 講座** 美術館が休館中でも、12階のアートスペースは利用可能な日があります。2018年度も、例年と同じくらいの回数を開催できるよう、計画していますので楽しみに。
- 他館鑑賞会** 例年より積極的に開催を企画する予定です。「仲間と行くから」「学芸員さんのお話を聞けるから」「行ったことのない美術館だから」など、どんな理由でも結構ですので、ご参加ください。
- イベント（懇親会、旅行）** 毎回好評のバスツアー。2018年度には、一泊バスツアーを予定しています。「愛知県美術館に所縁のある方がいらっしゃるところ、しかも絶好の期間で」と、狙っています。発表をお楽しみに。
- 所蔵品管理サポート** 通常どおり活動します。

これからの展覧会のご案内

京のエンターテイナー ROSETSU **長沢芦雪展** 

開催 2017年10月6日(金) - 11月19日(日)

編集後記

この会報は愛知県美術館が開催する展覧会や所蔵品、美術館友の会の活動を紹介する為に、年2回発行してきました。美術館の休館中、友の会の活動報告は『ミニ空中回廊』が担当する予定です。次回の『空中回廊』は美術館のリニューアルオープン時、美術をより身近なものに感じていただけるものにパワーアップしてお届けします。それまで皆さまの人生の回廊が、沢山の美しいもので彩られますように。(M. T)

友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は事務局（右記）までお問い合わせください。入会のご案内パンフレットやホームページでも詳しくご紹介しております。ぜひご覧ください。

改修工事期間中は郵便振り込みにてお願いします

編集 松下智子 / 井上真紀子 / 大矢真美代 / 冨永晃一 / 喜田泉 / 小林克敏 / 本田良子 / 村瀬英津子 / 森健次

協力 愛知県美術館

発行 2017年9月

愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2
愛知県美術館内(愛知芸術文化センター10階)

tel. 052-971-5511 (代)

(火・木・土10:00～16:00)

fax. 052-971-5617

愛知県美術館友の会 

✉ tomonokai@aac.pref.aichi.jp

愛知県美術館ホームページ

www-art.aac.pref.aichi.jp

twitter  @apmoafriends